

*****ジャッジご紹介*****



Ms Hannele Jokisilta,
kennel Palabras, Finland

私の人生にはずっと犬が関わっていました。私が最初に持った犬種はアイリッシュセターでしたが、その次の犬種は私にとって“人生の伴侶”、すなわちラブラドルレトリバーでした。

私とその犬種のとりこになったのは、もう39年前にさかのぼります。

若い頃からショーやブリーディングに大変興味を持っていたのですが、その為の良いブロードビッチを手に入れるまでに数年かかったので、Palabrasの犬舎名で最初のブリーディングをしたのは27年前でした。

FI CH Reflect Remetzelda という名の私の基礎犬はフィンランド生まれでしたが彼女の両親は有名な古いイギリス犬舎である Lawnwood の犬でした。

17年間にわたり、ずっと変わらず細く長くのブリーディング続けてきました。私は特定のラインや色に拘って来なかったので、良いと確信した場合には、実に様々なケンネルラインを使ってきましたし、3色全てブリーディングしてきました。色々な国の血統に使われてきた、INT&FIN CH SV-97 V-99 Palabras Blue Bayo (イエロー) と FI&EST&RUS CH Palabras Keep On Movin' (ブラック)の名前を聞いたことがある方もおられるのではないのでしょうか。

17年前には、ラブラドルとは全くかけ離れた犬種、ノーフォークテリアも所有しましたが、ラブラドルの「洗って、即、出発！」のような人間にはトリミングは優先されなかったもので、今は一頭のノーフォークテリアが家にいるだけです。

私は17年間審査をしてきましたが、現時点では258犬種審査資格を持ち、今後も更に学ぼうとしています。私にとってラブラドルを愛するのと同じ位他の犬種の事を学ぶことは、とても勉強になると信じています。

長年にわたり、私はフィンランドを始め17ヶ国のヨーロッパ諸国やアメリカにおいて膨大な数の審査をしてきました。

今回の日本は私にとって新しい審査実施国となりますが、私はこの大変興味深く、また古い歴史のある国を訪れる前にも、フィンランドで12月に開催される一番大きなショーを含む数回に加え、スウェーデンで3回、ノルウェーで2回、フランス、オランダ、ポーランド、ウクライナで審査をすることになっています。